

# 西真寺 寺報

平成二十九年 秋号

## 住職のつぶやき

近年アメリカの仏教徒の数は人口の一%相当に達し、これまでの四十年間で十七倍に相当する三百五十万人もいるそうです。その他にナイトスタンド・ブッディスト（仏教共感者）と言われ、夜寝る前にベッドに入つて仏教書を読みふける人達やスピリチュアルや瞑想に関して仏教に影響を受けた人々を合わせると三千万人いると言われています。

ノーベル物理学賞を受賞したアインシュタインはドイツ生まれのユダヤ人でありました。迫害を受けアメリカに亡命し、戦争に加担した科学者であり、その後平和主義を貫きました。

アインシュタインは、仏教について「未来的宗教は、広大無辺の宗教となる。それは、人格的神を超越し、硬直した教義や神学を避けなければならない。自然と精神の両領域を含み、自然と精神の全てが、有意義な一体として体験される宗教的感覚に基づかなければならぬ」。・仏教こそがこれらの要素を持つている。もし近代科学に対応できる宗教があるとすれば、それは仏教である」と論じています。科学と仏教は矛盾しないのです。

この考え方、アップル社の創始者である故スティーブ・ジョブズ氏などを中心に広まり、アメリカ人に影響を与えたのです。

信楽峻磨は親鸞の信心について、「元的主体的な「目覚め体験」であり、二元的対象（人格的神を対象とする）的ではないと述べています。アメリカで仏教に傾倒する人々は、仏教の不二（二つに分けない一体性）の思想に気づき、「信じる宗教」から「目覚める宗教」を求めてはじめているのです。

合掌

## 1. 地域居住の取り組み

■地域における老人と子どもの関係の再構築について①  
少子高齢化に伴う「Aging in place」（地域居住：住み慣れた地域でその人らしく最後までという考え方）に必要な取り組みとして「老人と子ども」の関係を再構築する働きかけが行政施策として挙げられています。各市町村においては、これを施策に必要であるとする意見が78.6%あるにもかかわらず、定期的に実施している率は45.9%に留まっているのが実情です。

単純に失われた関係性を取り戻す目的、あるいは学校の廃統合による空き教室の再利用など、「義的な課題」として実施しているならば、実施率は上がらないでしょう。老人と子どもに共通する「何か」を行政や地域の人々が理解していかなければ統合に至らず、絵に描いた餅に過ぎなくなることは言うまでもありません。先行研究によれば両者には何らかの相互的な心理的影響があり、「自発性」や「役割感」「自己実現」などの変化が見られると言います。ここでは、その「何か」を明らかにしながら地域における課題について考えてみたいと思います。

## 2. 老人と子どもに共通するイメージ像

老人と子どもには、岩宮處子が指摘するように「異界」という共通するイメージ像があります。映画「千と千尋の神隠し」の主人公である千尋は、異界を生きることで、本来の子供らしい純粋な心を取り戻していました。

老人と子どもに通じる「異界」との体験的な「生」には、意識と無意識が混在する過程があり、本来の自己の全体的イメージ（偽りのない自己）に近づいているとされています。またこの中の世代に位置する老人の子供夫婦は、社会適応のために自我を強化しながら、目の前にある意識中心の価値観で存在する為（例えば、出世や見栄、お金や生活優先）老人と子ども達とは対極的な異次元の存在であることが理解できます。

つまり、実際の親子の関係性より、老人と孫に当たる子どもとの関係には、世代を超えた心の深い層（無意識の世界観）を非言語的に「共鳴」するつながりがあるということです。

この為、「死に往く老人」と「看取る孫の世代」との関係には、共に「ある世界から来た」子供とその「ある世界に還る」老人という、人間の原点に近いイメージ像のはたらきがあります。

もう一つの老人と子どもに共通するイメージは、「丞性的性格」にあります。老人は、純粹な孫の姿に接して、「童子のイメージ」（仏の王子＝菩薩のイメージ）を経験し、意識と無意識のつながりを経て、性別を超えたレベルで生成し、過去における「偽りのない自己」すなわち、本来の自己にある全体性を取り戻すのです。

一方孫は、祖父母の死に往く姿に対し、人間存在の根底から湧き出る未来における一体性、すなわち『類推による』死後の世界の「先取り」を未來志向的に経験すると考えられます。二人の間には、「始原存在にして終末存在である菩薩のイメージ」という、根源的な原理がはたらいており、世代を超えた一体性を成す「いのちのつながり」を宗教的な目覚めとして体験するのです。

以上に掲げた「異界」と「丞性的性格」には、自分が「偽りのない自己」に成る過程を補うはたらきがあります。

つまり、この自己の中心的なはたらきには、死の準備に伴う、人間成就（成仏）への潜在力があるのです。またこの潜在力は、『無量寿經』において「阿弥陀仏」に成る前の「法藏菩薩」が、「淨土」に生きようとする「本当のいのちからの願い」（本願力）として示してくれています。（次号に続く）

### ■現代の仏教用語 〔迷惑〕

最近よく聞かれるご門徒さんの言葉で「子供に迷惑がかからないようにしておきたい」があります。核家族化し、県内外に住居を構える子供夫婦に向けられた終活に対する考え方が、前提にあります。しかし、人間は他人に迷惑をかけないで生きて、死んで往ける存在なのでしょうか？

現代語で迷惑とは、他人がしたことで不快にされたり、困ることを意味していますが、本来の意味はインドの言葉の「プラーティ」で心の迷いや迷走、迷妄を指します。親鸞聖人は「悲しきかな（中略）名利の太山に迷惑して」と記しましたが、私は、世間体とお金に対して惑わされているという意味になります。親も子も互いに名利に惑わされている身であること、互いに他人に迷惑をかけずには生きていけない身であることを深く自覚できれば、本来のお互いの関係に気づくのも任せません。



### ■西真寺 行事のご案内

報恩講

十月八日（日）十時

次号「地域における老人と子どもの関係の再構築について②」を予定しています